



(5) 試合前のフィールディング（シートノック）は原則として7分以内とする。

【解説】

- \* 短縮されたり、省略される場合もある。
- \* ノッカーは選手と同一のユニフォーム・スパイクを着用する。
- \* フィールディング（シートノック）時のノッカーは、内野と外野の2カ所でも可とする。
- \* 試合前の練習及びノックには登録選手以外に補助員をつけることができる（5名まで）
- \* 補助員は背番号のないユニフォームもしくは練習用のユニフォームとスパイク、ヘルメットを着用すること。
- \* 補助員としてコーチを認める。また、コーチ一人のブルペン捕手を認める。
- \* 次の試合の先発投手はオーダー交換後に球場のブルペンを使用することができる。ただし試合中の該当チームの監督に確認をとること。また、球場によっては使用できない場合もあり得る。
- \* マウンドは使用しない

(6) バット・マスク・ヘルメット等の用具は、試合前に審判員の確認に応じなければならない。

【試合中】

(7) トーナメント方式で、正式試合は通常7イニングから成る。

(8) 5回以降7点以上差がついた時は、全試合コールドゲームを適用する。

(9) 攻守交代は全力疾走で行い、先頭打者とランナーコーチは、ミーティングに参加せず、直ちに所定の位置に着くこと。

(10) 攻守交代の時、投手またはプレートに最も近い野手が球を投手板近くに置くこと。

(11) 試合中の球場内では、次打者以外は素振りなどをしてはいけない。次打者席では投手が投手板に位置したら、投手に注目し、素振りはしない。

(12) 投手の準備投球は、初回と投手交代の時は8球以内とするが、2回以降は4球または3球とする。また、捕手、予備捕手は安全のためマスクをつける。

【解説】

- \* 準備投球数は審判が状況を考慮して判断する。

(13) メガホンの使用は監督のみとする。

(14) 選手交代の申し出は監督が行う。コーチは試合前のノックを行うとき以外はベンチからでないものとする。

(15) 審判員に対して規則適用上の疑義については、当事者と監督が直接質問することができる。

(16) 本塁打を打った打者に握手を求めるためにグラウンドに出てはいけない。

(17) 『危険防止のための徹底事項』

- ① 用具は必ず規定のものを使用する。
- ② 足を上げてのスライディングなどの危険行為は禁止する。
- ③ 捕手のレガース・ヘルメット・プロテクター・スロートガード、ファウルカップと、打者と走者の両耳付きヘルメットは必ず着用すること。

【解説】

- \* 投球練習時の控え捕手の防具も着用する。
- \* ランナーコーチもヘルメットを着用すること。
- ④ 体当たり代表されるようなラフプレーを禁止する。
- ⑤ 危険防止のため、極端な前進守備を避けるように徹底する。

【解説】

- \* 一塁手・三塁手は塁間の半分、二塁手・遊撃手は一塁ベースと三塁ベースを結んだ所より投手が投球でリリースする前には出たはならない。

(18) 規則5. 10原注[前段]「投手は同一イニングで投手以外の守備についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることもできないし、投手にもどってから投手以外の守備位置に移ることもできない」は適用しない。

【解説】

- \* 中学校野球では登録人員の関連で本規則を適用しないとしたものである。作戦上の目的等、本来の趣旨からはなれて利用されることのないように留意されなければならない。

(19) 投手は1日に7イニングを越えて投球をすることができない。ただし延長戦及びタイブレーク、特別継続試合は除くものとする。

- (20) 公認野球規則改正のうち、定義38「ILLEGAL PITCH」(反則投球)の【注】の削除について、下記の通りとする。  
アマチュア野球規則委員会の通達通り“二段モーション”といわれる投球動作に関しては、走者がいない場合はボールとカウントしない。ただし、正しい投球動作を身につけるため、攻守交代時または、試合終了時にその投球動作を注意する。
- (21) 『監督が投手のところへ行く回数の制限』(5.10関連)
- ① 監督が、1試合に投手のところへ行ける回数は3回以内とする。なお、延長戦(タイブレーク方式を含む)は2イニングに1回行くことができる。
  - ② 監督が、同一イニングに同一投手のところへ二度目に行くか、行ったと見なされた場合(伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところへ行かせた場合)は、投手は自動的に交代しなければならない。”中学校野球”では、交代した投手が、他の守備位置につくことが許される。
  - ③ 監督が投手のところへ一度行くか行ったと見なされた場合は、球審は、あと一度行けば投手を交代させなければならない旨を知らせる。なお、一度目に知らせなかった場合は、二度目に行こうとしたとき、球審はその旨を知らせなければならない。  
ただし、球審が知らせなくても、監督が、同一イニングに同一投手のところへ二度行くか、行ったと見なされた場合は、投手は自動的に交代することになる。
  - ④ 捕手または野手が、1試合に投手のところへ行ける回数は3度以内とする。なお、延長戦(タイブレークも含む)になった場合は、2イニングスに一度行くことができる。捕手または野手が投手のところへ行ったと場合、そこへ監督が行けば双方一度として数える。(逆の場合も同様とする)
- (22) 攻撃側のタイムは、1試合に3回以内とする。なお、延長戦(特別延長戦も含む)は、2イニングに1回とする。守備側のタイム中に攻撃側は指示を与えることができるが、守備側のタイムより長引けば攻撃側の1回とカウントされる。(攻撃側のタイム中についても同様とする)
- (23) 塁上の走者、およびコーチスボックスやベンチから、球種などを打者に知らせるための行為を禁止する。
- (24) 延長戦は9回までとし、それでも勝敗が決しない時は次のようなタイブレーク方式(特別延長戦を行う。  
＜タイブレーク方式(特別延長戦)＞  
継続打順で前回の最終打者を1塁走者とし、2塁、3塁の走者は順次前の打者とする。すなわち、無死満塁の状態にして1イニング行い、得点の多い方を勝ちとする。勝敗が決しない場合は、さらに継続打順で得点差が生じるまでこれを繰り返す。なお、通常の延長戦と同様、規則によって認められる選手の交代は許される。
- (25) 守備時間が長い場合(概ね20分)には健康維持を考慮し、審判員の判断で給水タイムをもうけることとする。
- (26) 4回終了後にグラウンド整備を行う。
- (27) ベンチ内での電子機器類(携帯電話、パソコンなど)の使用を禁止する。
- (28) 暗黒・降雨などで試合が途中で中止になった場合は、翌日に特別継続試合を実施する。  
【解説】  
\* 特別継続試合は翌日の第1試合に先立って実施する。  
(チーム事情を考慮し、本部判断で変更する場合もある。)  
\* 特別継続試合を実施するチームは、一日3試合日程とならないよう配慮する。
- (29) 応援団は次の禁止事項を守ること。なお、これについては各チームの部長・監督が責任を持って指導すること。
- ① 紙吹雪・テープ・個人名を書いたのぼり等を禁止する。
  - ② 相手チームをやじったり、相手チームに不利を招くような応援をしない。
  - ③ 応援席周辺を散らかさない。ゴミは持ち帰る。

#### 【試合後】

- (30) 試合終了後のあいさつはホームプレートを挟んですべて完了することとし、次の試合のために速やかにベンチをあけること。  
【解説】  
\* ホームプレートを挟んでのあいさつ後、相手ベンチ前へ行ってのあいさつはしない。  
\* 試合開始、終了時のあいさつの際は、部長・コーチもベンチ前で同時にあいさつする。

(31) 各チームの部長か監督は、球場を去る前に本部に連絡し、次の試合日程等の確認を行う。

【その他】

(32) 監督・コーチは選手と同一のユニフォーム・スパイクを着用し、監督は背番号30、コーチは29、28をつけるものとする。(サングラスは着用しない。)

(33) 監督、選手のサングラスについては、医療目的としてのみ着用を認める。その際は監督会議で申し出て承認を得ること。

(34) スパイクについてはチームで統一すること。

(35) ベンチ以外からの指示及びコーチングは一切認めない。

(36) 選手のテーピングは肌色に近い色のものを用い、投手は投球に影響を与えるものは使用できない。

(37) 選手の頭髪、身なり等は中学生らしく、試合中はもちろんのこと試合の前後においてもスポーツマンらしくマナーには十分留意すること。

【解説】

\* 頭髪は試合(競技)に邪魔にならないようにし、染髪、脱色、剃り込みやその他、中学生としてふさわしくないことをしない。

\* ハイカットのストッキング、リストバンドは禁止し、装飾品は一切表には出さない。

\* 相手を威嚇するような声かけをしない。声かけはベンチ直前で行う。

\* 打者及び野手の手袋の使用を認める。また、打者のレッグガードやエルボーガード、リストサポーター等のユニフォームの外側に装着する装具は認めない。

(37) 登録選手・監督等の変更は、校長の理由書をつけて、監督会議の席で提出し許可を得る。

【解説】

\* 登録後身体的な障害を受け、出場不可能と認められる者が生じた場合のみ、変更願い書(理由書を付記)提出をもって認められる。

(38) 天候等による大会の実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、大会本部で決定し連絡する。

(39) 使用するバットは、木製バット、金属製バット、カーボン製バットとする。金属製バットについては金属材料とカーボン材料の複合製品は認める。その際「J・S・B・B」マークを付けた公認品で「SG」マークと中学生以上を対象とした「軟式用」表示のあるバットを使用する。

3. 参加申し込み

(1) 所定用紙により、6月19日(火)必着で、県委員長あてに申し込む。

\* 宮城県中体連HPよりダウンロード。職印必要。

\* 実行委員会から出されるパンフレット原稿とは別様式。

(2) 合同チームの参加は地区予選から勝ち上がったチームとする。

【解説】

\* 合同チームは各地区中体連の規定に準じて編成し、地区予選を勝ち上がったチームのみ参加を認める。

(3) 申込書に記載する個人情報については、各学校で選手に同意を確認し、同意が得られない場合は、早急に県委員長及び中体連事務局に申し出る。

4. その他

(1) 使用球 (公財)全日本軟式野球連盟公認球

(2) 審判 宮城県野球連盟 審判部

(3) 監督・審判会議 日時：令和元年7月8日(月)14:00～

会場：名取市文化会館 小ホール

※ 監督が出席できない場合は必ず代理者が出席する。